

患者さまの体験談

ICDを植え込んだ患者の方々から寄せられた体験談を掲載しております。

これからICDを植え込まれる患者の方や植え込まれた方が参考にしていただければ幸いです。

TIさん 社会に還元する心を持って

私は2000年8月にICDを植え込んで頂き、勉強会に出席したのは第4回ICD勉強会が初めてでした。やや緊張気味で会場に入りましたが、私と同じ病気を持った方がこんなにも大勢おいでになるということで心丈夫で大変リラックスして有意義な勉強会に出席できたことを感謝しています。

そして友の会設立に御苦労いただいた職務御繁忙の先生方、会のお世話をしてくる先輩諸兄の方々に厚くお礼を申し上げます。

私の病気の経緯を顧みますと、夜半心臓がコトンと音がしたように感じ目を覚ましましたが、すぐに寝入ってしまいました。翌朝は体の不調が気になりましたが、すぐに治るものと思い、予定にしていた会合に出席したり、土、日曜日は医院は休業のため家でゴロゴロして回復を待ちましたが、鉄のマントを肩から掛けられたような状態になり、月曜日になってかかりつけ医に飛び込みました。そして武田総合病院へ緊急入院、施術を受けました。急性心筋梗塞でした。常日ごろはコレステロール、中性脂肪が幾分高い数値を出していましたが、心臓病とは思えない病気でした。

そして施術後一週間経過した夜中に「Iさん」と呼ばれる声に気がつき、ベッドの周りにお医者様、看護婦様の顔がありました。意識消失し失神していたのだそうです。胸には電気ショックの跡が2ヶ所くっきりと残っていました。心室細動という、処置に一秒をあらそう非常に怖い病気なのだそうです。この日の当直の先生、看護婦様を大変驚かせお世話になりました。そして医仁会武田総合病院に入院させて頂いたお陰で「いのち」を頂けたのだと、感謝の気持ちいっぱいでございます。そしてその後ICDを植え込むことになった次第です。

植え込みましてから3ヶ月間程は肩が凝ったり、重たかったり、左を下にして寝られなかったり等と体の中の異物を感じておりましたが、今では自分の体の一部として何の抵抗感もなく生活しております。あのおそろしい不整脈発作をこの器具が治療してくれるのですから信頼し、健康な生活をする為の安心のシンボルであると考えております。右手を胸にあてると触れるマッチ箱大の器具に掌をのせ祈りをこめています。今回、高額医療とされますICD植え込み施術が、健康保険で適用され、私はその恩恵をうけました。社会の多くの皆様方からの御援助とお励ましを頂いたわけです。

感謝の気持ちを忘れず社会に還元する(そんなおそれたことでもなく)ころをもって、体に無理のない程度に地域の中で少しでもお役に立つことがあればと考えております。

Iさん 作動15～16回以上

昭和51年9月30日50歳で心筋梗塞で倒れ、近くの医院で治療を受けていましたが昭和54年6月13日53歳

の時、駅前の武田病院門田先生にお世話になり心カテーテルの検査を受けている途中(当時は造影剤、器具等、今ほど進歩してなくて)心筋梗塞が起こりICUに半月、その後一般病棟に1カ月入院しました。それ以後、駅前武田病院に通院しながら19年間72歳まで何も起こらず普通の元気な生活を送って来ました。

平成10年6月12日突然倒れ、意識不明のまま1週間が経ちました。その時の様子を娘から次のように聞いております。

午前0時20分ごろ大きな音とグーグーといびきの様な音がし、倒れているのを発見しました。直ぐに救急車を呼び父に声をかけると「ペー」と声を出し顔に触ると冷たく見る見る眞白になりました。救急車が着き救急隊の方々に(心肺停止の状態)で心臓マッサージ、電気ショックを受け息を吹き返しマッサージをしながら駅前の武田病院へ運ばれたそうです。奇跡的にも何の後遺症もなく助かりました。不整脈と診断され1カ半月入院後、木下先生に勧められて医仁会の方へ転送され池口先生にお世話になりました。先生は大変優しく親切なお方で、「あなたはICDを入れる手術をしなくては…」と器具を見せられました。こんな大きな物をと心配し、家族と相談の結果平成10年8月14日、9番目の手術を受けました。それ以来、また、もとの生活に戻り毎日2k程歩行し旅行、展覧会、花見、百貨店等、毎日出かけるようになりました。近くの喫茶店にも毎朝立ち寄り烏丸七条までコーヒーを飲みに行きました。しかし平成12年5月3日喫茶店で談笑中、突然作動し、救急車にて医仁会武田病院まで行きました。その日丁度、池口先生が日直で高垣先生も直ぐ来ていただき、検査をしてもらいました。その時1回でしたので先生は「次から2回以上したら来て下さい」と言われ帰りは地下鉄で無事帰宅しました。次6月13日は夕食後、入浴時肩まで浸かり浴槽の外でタオルを絞っているとき突然周囲が暗くなり作動しました。大きな音で倒れたので家内が吃驚して見に来ました。脱衣場でバスタオルで拭いているとき2回目、ベッドで3回目と約10秒毎に作動し救急車を呼びました。大変待ちどうしく感じ到着後も作動し続け、約15～16回作動したと思います。医仁会まで体力が持たないといわれ駅前に入院しました。病院に着いてからも3回作動しました。ICUに2日入り、その1週間後、医仁会病院へ武田病院の救急車にて岩瀬先生に付き添っていただき転送入院し、7月末日迄入院していました。

退院しましたが去年の夏は、特に暑く、病院と違い温度調整が難しく夜が寝られず苦労しました。しかし今は、1カ月毎にチェックに醍醐の医仁会池口先生の診察を受け安心しております。

家では毎日500m位歩き、気分が良ければ外へも行き、帰りは車椅子にて帰宅するようになりました。特に気を付けている点は入浴です。

”入浴は湯を少なくぬるめで肩までつからず長湯をせぬよう”気を付けています。

Kさん 私の体験

私は今年61歳を迎える男性です。昨年5月旅行先の山中温泉で倒れ、幸いなことに近くの国立山中病院で、最初の発作より35年目にして心室細動と診断されました。それまでは発作時の心電図がとれず見当違

いの薬を飲み続けて来たようです。そんな病をもちながらヨットで日本海を渡り当時のソ連に行ったり、赤道直下のインドネシアで連日ゴルフやダイビングをしたり、随分無茶なことをして参りました。

さて平成12年6月9日ICD埋め込んでいただき、手術室で作動テストをされ、OKが出て一般病室に戻り食事を済ませた時にいきなりICDが作動しました。作動後すぐにキューンと言う音と共に急速充電が行われるのを感じ、つぎからつぎへと8回も作動してしまいました。その間私は恐怖のあまりパニックに陥ってしまい、先生方からは落ち着くように励まされましたが、作動は続行するし神経は心臓に集中し、先生に入れたばかりのICDをすぐにでも取り出してほしいと懇願しました。

その後先生や看護婦さんたちの手厚い治療で1週間後に我に返りました。

おかげさまで退院後現在に至るまで作動はなく、一応順調に経過しております。今から作動時のことを思い返しますと、術後なので痛みは少し有りましたが、体外からの電気ショックに比べると衝撃も三分の一ぐらいで、あまりにも神経をICDに集中し過ぎて連続作動したように思います。これからは好きなゴルフなどをし、ICDと向き合いながら余生を楽しみたいと思っています。

今後ICD友の会が会員同士でざっくばらんに話し合える安らぎの会に発展されますことをお祈り申し上げます。

Fさん 心臓病と診断されて15年

私は現在48才です。34才の時にある夜、突然胸が苦しくなり入院、狭心症と診断されました。その後、数年に1度心臓カテテル検査と毎日の服薬で、普通に仕事、生活を送っていました。40歳過ぎた頃には、今度は糖尿病と診断されて、当初は食事療法のみでしたが、言い訳がましいですが、仕事で海外出張したり、又外食する機会が多く、カロリー制限が守れず44才頃より、糖尿病の治療薬の血糖降下剤を服用開始し、狭心症と、高血圧の薬を併用し、自営の為3年近くほとんど、無休でがんばって居ましたが、平成10年1月頃より、手足がしびれだし、糖尿の合併症かなと言われ、当時の主治医であった 近くの医院で点滴通院したりしていたが、血糖コントロールもうまく云っており、違う病気ではとのことで、A 総合病院を紹介されて検査の結果、頸椎後縦靭帯骨化症と診断され、手術しないと四肢まひになってしまうとのことで、手術することになり、手術前の心カテテル検査で2ヶ所の心血管の狭窄が見つかり、PTCAとステントを入れる治療を7月にしていただき、9月に脳外科で8時間の手術をし3ヶ月入院していました。その入院中術後2週間程経過後ある日の夕食後突然動悸がはげしくなり、脈がはやくなり何とも表現しがたい、苦しみを体験し、いわゆる発作性の頻脈型の心房細動をおこし、その時診察していただいたのが、現在の主治医のC先生との最初の出会いでした。点滴治療で治まったのですが、41才の時肩の靭帯の手術後も同じ症状があったのを思いだし心臓病を持っている人は、全身麻酔はリスクがあるのだとつくづく思いました。術後1年経ってH11年夏頃から動悸、胸の不快感などの自覚症状があり当時の循環器内科の主治医であったB医師に心室性期外収縮だから、心配するような不整脈ではないと診断され、アーチストという薬を開始、その時には院内の糖尿病外来も受診しており血糖降下剤も毎日服用していました。服用開始後、1ヶ月経過後、今度は身体の異常な寒さと、動悸、冷や汗、いわゆる糖尿病の低血糖症状が発生しました。アーチストと血糖降下剤の併用は低血糖症状が引き起こしやすいことが分かり、糖尿担当医師は違う薬に変えてもらってはと助言され、血糖降下剤の服用は中止していただき、それでも体質が変わってしまい、H12年3月頃までは、診察受

けるたびにB医師に薬の変更を要求したのですが、糖尿のことは知らないこの症状にはこの薬が良いと、頑固として譲らず、とうとう私もこれはまずいと自己判断して、当時数ヶ月前に不整脈の研究の為、アメリカより帰国して不整脈外来診察しておられたC先生に受診を代わり、心良く引き受けていただき、7月頃まで頻脈になったり、低血糖の時、徐脈になったりし、両方に対応出来る2種類の薬を循環器の薬と一緒に処方していただき、一生懸命対応していただいておりますが、3時に補食しなければ、低血糖がおきてしまう体質になってしまい、7月24日商談中に突然動悸が激しくなり、薬を飲んで車の中で1時間程寝ていて自分の運転で自宅に帰り、妻に血圧と脈拍をはかってもらい、だいぶん落ち着いているとのことで、早くやすみました。

妻は、他の病院ですが経験20年の現役の看護婦ですので長年私の体調をそばで、見ていたので、何か変化があれば、病院へ行こうとおもっており、翌日午後又脈拍と血圧が上がっているので、妻の判断で自力で病院へ着いた直後、外来の廊下で動悸とめまいがして、倒れてしまい、そのまま入院し、数日後、不整脈の検査カテーテルで、VTの波形が出て、VTとはventriculartachycardia、心室頻拍ですぐにICD入れましょうとの説明があり、C先生を信頼していたので、悩まず受け入れ8月10に心臓外科医B先生に埋め込み手術をしていただきました。同月に13番の心血管も狭窄がみつきPTCA 治療を行っていただき、薬も脈が飛ぶ自覚症状がプロノンという薬でほとんどなくなり、昨年秋にはついにアーチストをテノーミンという薬にかえていただき、アクトス血糖降下剤と併用し他11錠朝、昼3錠、夜10錠、服用しております。ICD術後めずらしいケースらしいですが左腕手甲のはれが、ひかず、CT像映検査していただきましたが、腕の血流は大丈未らしいですが、ニチステートを服用していましたが、あまり腫れが改善されないので今後ワーファリン剤を服用し1週間に1度血液検査しながら経過を見ていただく次第です。まだまだ私が副会長している糖尿病さつき会の活動のことや、わたしの知ってる海外の日本語が話せてICD対応が出来る病院の事など、機会があれば次回おはなしすることにしてC先生の、熱意と病院スタッフに感謝し私の近状をお話しました。

追伸 近くハワイ、台湾、インドネシアなどに行かれる予定のかたがありましたら、詳しくおしえますので連絡ください。

としさん タイでドッキリ体験

環境を変えるためにタイに旅行する事にしました。違う環境に行き、自分に別刺激を与えようと考えた訳です。結局、15日間のタイ滞在でICDは一回作動しました。

タイは日本の夏よりも湿気が多く、息苦しさを常に感じる環境であった為に残念ながら私の身体には余り合わなかったようです。今度は湿気の少ない所に旅に出るつもりでいます。

ところで、空港のセキュリティーではICDが入ったままでは通れませんので、係員に説明する必要があります。ICD手帳の1頁目を係員に見せると大抵は分かってもらえますが、まだICDの知名度は低いので口で説明するだけでは分かてもらえない事があります。その場合、ペースメーカーの様な物だと説明すれば理解してもらえます。また、空港での航空チケット交換時に、ICDを埋め込んでいる事を説明すると飛行機の席が一番前の方の良い席を手配してもらえます(勿論、空席があればですが)。また、飛行機の係員も時々

大丈夫か確認しに来てくれました。バンコクの空港に着いた時は、現地の係員が私の名前を書いたボードを持って待っており、エアポートバスに乗る事を説明すると、そこまで送ってくれました。また入国手続きも特別に素早く行ってくれました。勿論、無料です。

タイから帰国してから現在に至る訳ですが、毎日の運動に効果があるのかどうかは分かりませんが、その後は全く問題がありません。実際に不整脈を克服できる物なのか素人の私には分かりませんが、私自身は少なくとも治るものだと思っています。少なくとも、不安に働いている時よりは、発作の起こる頻度は確実に減りましたし、帰国後は一度も起こっていません。発作の前兆を感じた時は腕を伸ばし、背筋を伸ばす事で治まります。生まれた時代や国によっては、既にこの世から去っているかも知れないと思うと、自分の運の良さに感謝します。折角、運良く生き延びる事ができたのですから、この忌々しい病から逃れる事ができるよう頑張りたいと思います。

Kさん 家族旅行

ICDを植え込んでいるという不安で、「どうせ何処にも行けやしない」と口癖のようにいう私に夫が「グアムへ行こう」と誘ってくれた。娘、息子もスケジュールを合わせてくれ家族旅行となった。医師にそのことを伝え、現在の体の状況を書いてもらい、メドトロニック社でグアムでの病院を探してもらった。旅行社にもICDの装着を知らせた。

2000年8月30日、グアムへ旅立った私。

青い空のもと、魚の泳ぐのが見える海で遊び、楽しい日々を過ごした。

空港で心配したチェックは、ICDと言っても解らないのでICD手帳を見せボデイチェックを受け無事通過。ICDを埋め込んでも、色々なところに行く事もできるのだと実感し家族に感謝して帰路についた。また機会を作って出かけていきたい。

2001.9.10.今年も家族旅行。

アメリカへ行くという事が決まり、主治医に可能かどうかを伺い、OKが出されました。

すぐに私のICDをいつもチェックしてくれているメドトロニック社の三宅さんに「旅行地のICD診断可能な病院を探して下さい」と依頼しました。主治医を通じて病院紹介が有り安心して出発準備。出国する前、ノースウエスト社の方から診断書の提出を求められこの先どうなるだろうと心配しながら出国。

出国の折り、日本の税関職員は、まだICDについて知識がありませんでした。いつものようにペースメーカーと言うことで通過。

ロスアンゼルス空港で、職員に「Do you know ICD?」と聞きました。

「Yes」と返ってきました。知っているんだ。なぜかとっても嬉しくて「サンキュー、サンキュー」を連発してしまいました。

日本の税関も早くICDを知って欲しいと思っています。